



令和4年10月25日

各報道機関 御中

企画総務部総務広報課長

国内初！農学部が日本 GAP 協会公認研修機関に認定

宮崎大学農学部は、一般財団法人日本 GAP 協会（以下、日本 GAP 協会）の承認審査を経て、国内の教育研究機関では初めて、JGAP 指導員資格の取得や更新が可能な研修機関として9月29日付けで承認されましたので、お知らせします。

GAP（ Good Agricultural Practices ）とは、農業生産活動において食品安全、環境保全、労働安全に関するリスクを低減し、農業の持続可能性を確保するための取り組みです。この GAP の中には、審査員が取り組み状況を審査し、認証を与える認証制 GAP があります。GAP 認証を受けた農産物は、持続可能な農業により生産された農産物として、東京オリンピック・パラリンピックで選手村などの食材として使用されたり、小売店などの SDGs の取り組みの一部として扱われたりするなど、需要が高まっています。しかし、GAP 認証を取得するためには専門知識が必要であり、農業者のみで取り組むことは困難である場合があります。そのため、取り組みを指導する人材として「JGAP 指導員」が養成されており、農畜産業において活躍の場を広げています。



農学部では、2011年より4年間をかけて学生を対象とした GAP 教育プログラムを構築し、現在も継続して実施しています。この中で、農学部附属フィールド科学教育研究センターの木花フィールド（農場）および住吉フィールド（牧場）が GAP 認証を取得し、学生教育へ活用してきました。近年では、学生教育だけでなく、多くの学外者向けの研修も行っています。さらに、これらに加え、この度、日本 GAP 協会公認研修機関として認定されたこと

により、JGAP および ASIAGAP 認証に必要な知識の習得ができ、指導員資格の取得も可能な研修を実施できるようになります。実施できる研修は、農産および畜産それぞれに対応した【JGAP 指導員基礎研修】【JGAP 団体認証研修】【JGAP 指導員現地研修】と農産のみを対象とした【ASIAGAP 基礎差分研修】の7種類です。これらの研修は、農学部学生だけではなく、学外者も受講が可能であり、GAP を学んだ学生の輩出に加え、地域の GAP 普及にこれまで以上に貢献できるようになります。

また、西日本最大級の大学附属牧場施設である住吉フィールドは、これまで2期10年間にわたり文部科学省の認定制度である教育関係共同利用拠点に認定されていましたが、3期目の令和5年度からの5年間についても再度認定されることとなりました。教育関係共同利用拠点制度は、大学の施設を他大学の教育に提供することによって大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していくことを目的としていて、農場では全国で8大学が認定されています。住吉フィールド(牧場)は「九州畜産地域における産業動物教育拠点」という名称で、上記のGAP実習や今後はDXを取り入れた全国的にもユニークな実習を本学学生のみならず他大学の学生にも提供していきます。

宮崎大学では、今後も安心・安全に繋がる農業の担い手の育成を推進し、地域の農業振興に貢献できるよう努めてまいりますので、取材についてご検討いただければ幸いです。



① 発信元
企画総務部総務広報課広報係(後田)
TEL:0985-58-7114

② 問い合わせ先
農学部住吉フィールド(真・廣谷)
TEL:0985-39-1034

教育関係共同利用拠点（宮崎大学、農場） H25年～

- 施設の名称：宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター・住吉フィールド（牧場）
- 拠点の名称：九州畜産地域における産業動物教育拠点

【教育関係共同利用拠点の概要】

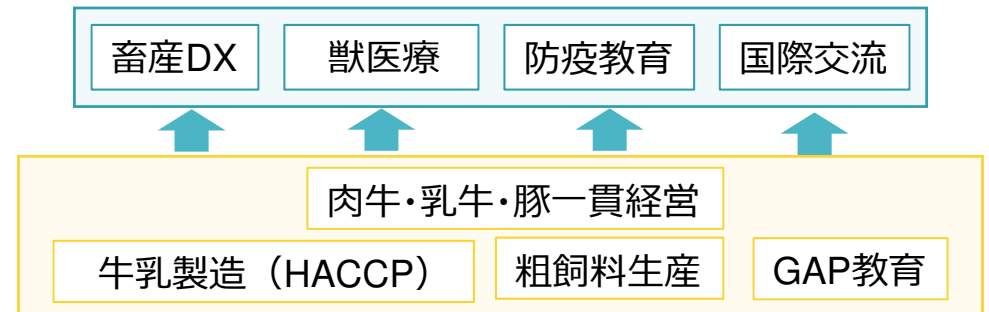
（目的・役割）

国内外の他大学学生および教職員を対象に「食と農の食品安全確保」に資する実践フィールド教育を実施して社会に貢献する

（拠点の特色）

- 【教育基盤】
- ・肉牛、乳牛および豚の一貫経営
 - ・自牧場の生乳の牛乳製造（HACCP実践）
 - ・粗飼料生産（自給率ほぼ100%）
 - ・我が国唯一のGAP教育牧場

- 【専門教育】
- ・畜産DX実証牧場
 - ・専任教員（獣医師）による獣医療実践実習
 - ・口蹄疫の経験を生かした防疫教育
 - ・多数の海外大学生受講者との国際交流



一般的な飼養管理を学ぶ中で、GAP手順にのっとった管理方法を実践できる。
これらのベースとなる実習に加え、**受講者の興味や専門から、受講内容を希望**できる。

【拠点を活用した教育の取組】

牧場フィールド体験実習

主に非農学系学部（農学部を除く）の学生を対象に実施。家畜飼養管理等の実習を通じて、安全・安心な食の生産現場を幅広く体験することにより、農業と環境、いのちの大切さなどについて理解を深めることを目的とする。

産業動物適正管理入門実習

主に農学・生命科学系学部の学生を対象に実施。飼養・衛生管理、防疫、動物福祉等、家畜の適正な管理による家畜生産現場の安全管理を集中的に学習し、「食」と「農」の安全を確保する人材の養成を目指す。

高等教育コンソーシアム宮崎加盟校対象研修

九州保健福祉大学および放送大学宮崎学習センターの学生を対象とした実習。単位授与対象。



教育関係共同利用拠点（宮崎大学、農場）令和5年度以降の取組

【取組のポイント】

- 本学工学部との連携による畜産DXの構築
- 令和2年度概算要求により新設した乳牛舎を活用した実習
- GAPおよびHACCPによる食の安全リスク管理者の養成
- 国際的拠点への対応

畜産DXの構築

現在、施設・設備のDX化を進めている。これにより、生産性の向上、高付加価値化、安全性の向上などの諸問題の解決方法となりうる畜産DXを実践的に学ぶことができる。

乳牛舎を活用した実習

搾乳エリアに設けた見学スペースや牛舎内に張り巡らせたキャットウォークを活用し、これまでは観察できなかった角度からの観察が可能となり、乳牛の生態を知ることができる。

食の安全リスク管理者

新設乳加工室にて、HACCPを実践することにより、牛乳製造時の食の安全リスクを管理し、飼養時のリスクはGAPで管理することにより、フードチェーン全体における食の安全リスクの管理方法を実践的に学ぶことができる。

国際的拠点への対応

新型コロナウイルスのパンデミックに伴い、構築途中となってしまった国際的畜産教育拠点について、我が国の方針の中で、海外大学生の受入を再開し、海外の大学との連携を深める。



牛監視カメラの映像

HACCP



GAP



R 4 年度までの取組

国際的
拠点

獣医療実践

家畜飼養管理

粗飼料生産

GAP

飼養時の
リスク管理

R 5 年度以降の取組

生態
観察

畜産DX

家畜飼養管理

粗飼料生産

獣医療実践

国際的
拠点

HACCP

牛乳製造時の
リスク管理



GAP

飼養時の
リスク管理